

下関医療センター 広報誌

馬肉医心

ばかんいしん

vol.1

2014

春号



I N D E X

院長・看護部長挨拶	P2
皮膚科紹介	P3~P4
がん化学療法	P5
看護認定看護師の紹介	
新入職員の紹介	P6~P7
院内ウインターコンサート	P8
地域医療を援病院に承認されました。今後の病院行事のご案内	
PHOTO/浅井の一本桜(久留米市)	

【理 念】

最新の知識と医療レベルを駆使して、
地域住民に誠心誠意奉仕します

【基本方針】

1. 病める人の立場に立ち全人的医療を実践します
2. 地域連携を推進し、地域に密着した医療を展開します
3. 良質・最新の医療を提供するため、日々の研鑽と人材育成に努めます



独立行政法人地域医療機能推進機構

下関医療センター

郵便番号750-0061 下関市上新地町3丁目3番8号
TEL.083-231-5811(代表) FAX.083-223-3077
TEL.083-231-7887(健康管理センター)

院長・看護部長挨拶

ごあいさつ

平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当院は本年4月1日をもってグループ57病院の一つとして独立行政法人地域医療機能推進機構（Japan Community Health care Organization: JCHO）の直接管理下で運営されることになりました。昭和25（1950）年に設立された当院は、組織体制を新たにして船出致しました。移行に伴いまして、機構の指示により、病院名は「独立行政法人地域医療機能推進機構 下関医療センター」に変更となりました。

下関市民の皆様から親しまれてまいりました「下関厚生病院」の名前がなくなる事は寂しい限りですが、病院がこれまで以上に地域に貢献できる新しい船での出発とご理解いただければ幸いです。市民の皆様は暫くの間旧名称で当院を呼ばれるかもしれませんが、新しい「下関医療センター」の名称に慣れていただければと願っているところです。

当院は新機構による公営の病院となりますが、病院の基本方針はこれまでとは変わりません。新機構の名称からもご理解いただけるかと思いますが、地域に密着した医療の提供が大きな責務です。当院は、これまで地域医療に貢献するという事を最優先にまいりました。この姿勢に何ら変わることはございませんし、地域包括ケアの観点からはこれ迄以上に地域医療に寄与してまいります。診療部門に加えて健康管理センター、訪問看護ステーション、介

護老人保健施設が併設されているのも当院の特徴です。これらお互いが密接に連携して、地域包括ケアに貢献することが新機構からも求められています。新たな船出に際して、地域から信頼され、親しまれる医療機関でなければと決意も新たにしております。

当院は本年2月に地域医療支援病院の認定をいただきました。名実ともに地域医療を支えていく病院として公に認められたと職員一同喜んでおります。これも地域の皆様のご支援があったからこそと感謝致しております。同時に責任の重さもあらためて実感しているところです。

これからは、これまでの64年間に培われた当院の伝統と信頼に、「下関医療センター」としての新たなページを書き加えていくということになります。地域で必要とされる「下関医療センター」に大きく育てていただきますよう倍旧のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。新機構への移行のご挨拶させていただきます。



院長 佐々木 功典

これからも“つながり”を大切にしていきたいと思います。

「私ら厚生病院のこと、いつも気にしちよるんよ。ますます、ええ病院にしてね、応援しちよるから!!」と声を掛けられるのは、『下関厚生病院思い出を語る会』でのひとコマ。この会は、当院を退職された方有志76名で平成20年に発足され、年に一度集い、昨年で第6回目を数えました。私は現役管理者として毎年ご招待を受け、私自身が新入職員の頃、大変大変お世話になった諸先輩方より、いつも前記のような温かい励ましのお言葉を頂きます。どんな風にそれぞれの時代を築き上げてきたのか、今の職員に何を期待しているのか、ものすごく篤く、病院への愛情いっぱいに語られます。その度に、自分が今受け継いでいるものの大きさ深さ、責任の重さを感じています。いく度かのいろんな時代を乗り越えてきて、歴代看護部長から“つながれた看護”のバトンを、私も次世代の人へと渡していかなければならないと思っています。

下関厚生病院開設64年、その歴史始まって以来の大きな転換期を今年迎えました。長い年月慣れ親しみ、地域の皆さんに愛されてきた「下関厚生病院」の名前は変わりますが、これからも提供する医療・看護に変わりはありません。むしろ、今まで以上に地域との“つながり”を重視していく組織となります。下関地域は、全国に先駆けて高齢化率も

高く、当センターも入院患者さんの半数が75歳以上の後期高齢者となっています。超高齢社会を迎え「とことん治す医療」から、何らかの病気を抱え折り合いをつけながら「生活を継続する医療」へとシフト転換を迫られています。そのため保健・医療の知識とともに“生活”の視点を併せ持つ看護職は、地域包括ケアシステムの要となる

ことが期待されています。地域の中で「その人らしく安心して暮らせる」ことを支援するためには、多職種協働をベースにした“地域につなぐ看護”の展開、特に行政・在宅・病院が「顔の見える関係」でつながる事が重要だと改めて再認識しています。国の政策が今後どのように変化するとしても、地域で生きる人々の立場に立った医療を進めることが、地域で暮らし、地域の現状を知り抜いた私たちだからこそできる大事な使命と考えています。今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。



看護部長 古本 たつ子

皮膚:それは最大の臓器

皮膚は、表面だけでなく、表皮・真皮・皮下組織(皮下脂肪)から構成されていて、大人で面積1.6㎡、重さは体重の約16%を占め、人体で最大の臓器です。進化の過程で体毛が萎縮したことにより、熱を効率的に発散できるので、長距離走れるようになりました(他の動物では、今年の干支の馬くらいしかいません)。これにより、草食動物を長時間追いかけて仕留めることができ、生存していくことが可能になったのです。

皮膚科医は探偵!?

皮膚科では、「いつから?」「どこが?」「どうなった?」「何をした?」など、たくさんの質問をされます。アレルギーや虫さされでは、ペットの有無、近所の動物を可愛がるか、草むらに入ったか、土いじりをするか、などもしつこく聞かれます。接触皮膚炎などかぶれの場合は、普段使う化粧品から1度だけ使った試供品、シャンプーなどヘアケア製品でいい香りがしないかまで、あらゆる可能性を探ります。記憶を呼び起こすためのカレンダーや、細かいところを観察するルーペも使い、まるで探偵のようです。

薬疹・・・

発疹を見て、「たぶん薬疹だろう」と思っても、多種多様な薬剤を服用されている方で、原因薬剤を特定するのは至難の業です。受診の際は、おくすり手帳(記載されていない場合は薬剤を)、飲んでいた健康食品やサプリメントなど、必ずご準備ください。薬剤の検査は時間も費用もかかる上、陽性率は高くありません。皮疹の型(タイプ)と服用歴から、かなりのところまで絞込みます。発熱や水疱、粘膜症状を伴う場合は重症化しやすいため、入院治療を行います。

ナースは白衣の天使ですが、皮膚科医は神様ではありません

髪に覆われた頭皮や顔面、背中、臍、関節部分、爪、はたまた足のゆびの間まで、それぞれの部位で全く異なった性質を持つ皮膚は、診察のときに見えているとは限りません。見えなくても、言わなくても病気が判るような名医だといいいのですが・・・隠れた部分の病変も、看護師や医師に必ず見てもらいましょう。

悪性?良性?

皮膚のできもの(腫瘍)は、以前は肉眼で見るか、皮膚を切り取ったものを顕微鏡で調べる(病理検査)しかありませんでしたが、数年前から、ダーモスコープという、拡大レンズで見ることにより、かなりのところまで切らずに悪性か良性かわかるようになりました。それでも判断がつきにくい場合は、やはり部分的に切って顕微鏡で調べますが、ダーモスコープの登場で、以前よりその割合を減らすことができるようになりました。気になるできものは、まずダーモスコープで検査しましょう。

ダーモスコープ



皮膚科ご紹介

带状疱疹

一生のうち、6人に1人がかかるものですが、身近にかかった人がいないと、わかりにくい病気です。水ぼうそうのウイルスが体に潜んでいて、疲れやストレスで免疫が低下したときに、神経の範囲に一致して痛みと紅斑と水疱が出たら間違いありません。早期の抗ウイルス薬治療が、重症化や带状疱疹後神経痛を防ぐ上で大切です。近年、神経痛の治療に使える薬が増え、また、当科のメディレーザソフトも有効です。

乾癬(かんせん)を知っていますか？

近年、食事の欧米化に伴って日本でも増加している乾癬。最初は湿疹のようですが、治っても再発しやすく、長期間にわたり(数十年となることも)皮膚の赤みとカサカサ(落屑)が出没し、全身に広がることもあります。治療はステロイドやビタミンD3の塗り薬から、免疫抑制剤まで病状に応じて使っていきます。当院では、UVAやnUVBのほか、エキシマライトを導入しました。また、生物学的製剤の治療もできます。

エキシマライト



病診連携のお願い

昨年、常勤医が2名から1名に減りました。産業医科大学、熊本大学から、複数の皮膚科医に外来の応援に来ていただき、大変助かっていますが、以前に比べるとマンパワー不足は否めません。御迷惑をおかけすることも多いと存じます。積極的に紹介をさせていただいておりますので、一層の病診連携・病病連携を何卒よろしくお願いいたします。

皮膚科外来スタッフ



がん化学療法看護認定看護師の役割

がん化学療法看護認定看護師 園山 好恵

がん治療を受ける患者さんに対する看護の目標は、治療を受けながらもその人らしい社会生活が維持できるように支援することです。私はそのために不可欠なものは、セルフケアだと考えています。患者さんができないことをできるようにすることではありません。できることをよりできるように、そしてそれはあたかも、患者自身ができるようにしたと感じさせることが大事なことと考えています。

がん化学療法看護認定看護師は、患者さんが、がん化学療法を安全に受けることができるように、専門的知識と技術をもって看護を行います。副作用症状のマネジメントや患者さんがセルフケアを実践できるように支援をします。また患者さんご家族を含めた心理的支援も行います。さらにがん化学療法に関する指導やコンサルテーションなども行うことで、がん看護の充実を図る役割をもつ看護師です。

以前治療日記をつけている患者さんがいました。この日記を見ると、今回の治療までの状態がどうであったかが判断できます。私は「毎日チェックするのは、なかなかできることではありません。看護師にとってもありがたいことです。すばらしいですね。」と声を掛けました。その後この患者さんは、日記をそっとテーブルの上にだしてくれています。しばらくして「治療翌日の薬の飲み忘れがあった。こんなことがないように、このノート書くようにする。これなら絶対忘れないから。」と私に話してくれました。治療日記には赤ペンで大きくマークと薬品名が記載されていました。まさにセルフケアだと感激した瞬間でした。

がん化学療法看護認定看護師は「治療を受けているがん患者さん」と思うのではなく、「がんとともに、今このときを生きている生活者」とい視点で捉えていかなければならないと考えています。そして現在勤務している外来という限られた時間の中で「治療を受けながらも、その人らしく過ごせるように」を支援していきたいと思います。



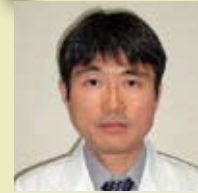
新入職員の紹介



歯科口腔外科 部長
にのみや ともひろ
二宮 史浩

専門分野 / 口腔外科
資格 / 歯学博士
日本口腔外科学会（専門医）
日本小児口腔外科学会（認定医、指導医）

【一言メッセージ】
九州大学病院 顔面口腔外科での経験を活かせるよう地域医療に貢献していきたいと思っています。



放射線科 部長
ささき かつみ
佐々木 克巳

専門分野 / 画像診断
資格 / 日本医学放射線学会専門医（画像診断）
マンモグラフィー読影認定医
認定産業医
医学博士（甲）

【一言メッセージ】
CT、MRI、RI検査において診断のお役に立てるようがんばります。病診連携を通じた検査のご依頼、よろしく申し上げます。



麻酔科 医員
おおの ひろゆき
大野 宏幸

専門分野 / 麻酔科
【一言メッセージ】
2年振りに山口に帰ってきた麻酔科の大野宏幸と申します。今年度から麻酔科医になったばかりで未熟ではありますが、できる限りの最良の麻酔をかせさせていただきますので、今後ともよろしく申し上げます。



消化器内科 医員
やの かなえ
矢野 愛恵

専門分野 / 消化器内科一般
【一言メッセージ】
患者さんひとりひとりと真摯に向き合い、丁寧な診療を心がけていきます。どうぞよろしく申し上げます。



消化器外科 部長
まえだ よしなり
前田 祥成

専門分野 / 消化器外科、腫瘍外科
資格 / 日本外科学会（認定医、専門医）
日本消化器外科学会（専門医）
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本肝臓学会（専門医）
マンモグラフィー読影認定医
インфекション・コントロールドクター

【一言メッセージ】
2008年に当院を退職し、山口大学第2外科で6年間、肝臓外科、腫瘍免疫学に携わってきました。この度、再び下関に帰ってくることができ、身が引き締まる思いです。安全で確実な手術と、心かよった温かい医療を目標に精進してまいります。よろしく申し上げます。



泌尿器科 医長
ひろよし としや
廣吉 俊弥

専門分野 / 泌尿器科、悪性腫瘍、排尿障害、腎不全
資格 / 日本泌尿器科学会（専門医、指導医）
日本臨床腎移植学会移植認定医

【一言メッセージ】
4月より赴任した廣吉です。専門は泌尿器全般と腎不全です。まだ不慣れなところもございしますが、よろしく申し上げます。



麻酔科 医員
いちき あゆみ
市来 亜由美

【一言メッセージ】
患者さんにとって出来る限り苦痛のない麻酔管理を心がけます。よろしく申し上げます。



脳神経外科 医員
おおした まちこ
大下 真知子

【一言メッセージ】
今年度から着任しました大下真知子です。下関の地域医療に貢献できるよう努めます。どうぞ宜しくお願いいたします。



糖尿病内分泌内科 非常勤医師
まつなが きみえ
松永 仁恵

専門分野 / 糖尿病、内分泌
資格 / 内科認定医
糖尿病専門医

【一言メッセージ】
糖尿病を中心に、甲状腺疾患、内分泌疾患の診療に当たらせて頂きます。患者さんにとって身近なドクターとなるように、日々、丁寧な説明、診療に心がけています。



臨床研修医
のだ たけし
野田 健

【一言メッセージ】
患者様にはもちろんですが、周囲の先生方、看護師さんなどスタッフにも信頼される医師になれるよう努力します。



循環器内科 医員
なかむら ともみ
中邑 友美

専門分野 / 循環器内科
資格 / 内科認定医

【一言メッセージ】
これから循環器内科をしようとしている未熟者ですので、ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



放射線科 医員
いとう けんぞう
伊藤 賢三

専門分野 / 放射線科、画像診断
資格 / マンモグラフィー読影認定医
日本医学放射線学会専門医

【一言メッセージ】
若輩者ですが、地域医療に貢献できますよう精一杯努力いたします。



臨床研修医
よしかわ りな
芳川 里奈

【一言メッセージ】
まだまだできないことも多いですが、しっかり勉強して、できることを1つずつ増やせるよう頑張ります。



臨床研修医
やすの しゅういちろう
安野 秀一郎

【一言メッセージ】
研修医の2年間を下関医療センターで過ごさせていただきま。まだ右も左も分からぬ状態ではありますが、元気一杯に頑張りたいと思います。



眼科 医員
うち しょうへい
内 翔平

専門分野 / 眼科一般
【一言メッセージ】
下関の地域医療を支えていけるよう尽力いたします。よろしく申し上げます。

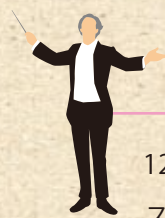


血液内科 医員
まつくま まさふみ
松隈 雅史

専門分野 / 血液内科
【一言メッセージ】
貧血といった身近な病気から、白血病などの悪性疾患まで、血液に関して幅広く診療しています。誠心誠意、診療にあたらさせていただきます。

そのほか、診療放射線技師2名、看護師12名、事務職員1名の採用がありました。みんなで力を合わせ、頑張っていきます。





* 院内ウインターコンサート *

12月16日に、コールスマイルの方々によるコーラスとドルフィンキッズの歌とダンスでコンサートが開催されました。

穏やかな大人のコーラスを聞いた後、会場の皆さんも指を使って歌に参加され、最後は「いにしへの町下関我が街」が歌われました。

次はクリスマスソングで踊る小人の妖精たちが登場し会場を楽しませてくれました。

入院中の老人が「子供の遊戯を70年ぶりに見た。」と懐かしそうにされ、ドルフィンキッズの元気に魅了されたひと時となりました。



* 地域医療支援病院に承認されました *

当院は、平成26年2月14日付で山口県より「地域医療支援病院」として承認を受けました。「地域医療支援病院」とは、医療機関の連携及び役割分担を図るため、紹介患者さんに対する医療提供、病床や医療機器の共同利用の実施、地域の医療従事者の研修等を通じ、かかりつけ医を支援する機能を備えた病院です。今後もこの趣旨に沿い、地域の医療機関等との連携を強化しながら、地域の皆さまにより安心・安全な医療を提供できるよう努めてまいります。



* 今後の病院行事のご案内 *

肝臓病教室 【一般の方向け】

- 4/25(金)** 「C型肝炎アップデート！」～C型肝炎の診断と治療～
講師：下関医療センター 肝臓病センター 加藤 彰
- 5/23(金)** 「脂肪肝炎アップデート！」～脂肪肝炎の診断と治療～
講師：下関医療センター 肝臓病センター 木村 輝昭
- 6/27(金)** 「食事アップデート1！」～生活習慣病と食事～
講師：下関医療センター 栄養治療部

臨床栄養勉強会 知らなきゃソノ塾 【医療従事者向け】

5/17(土) 会場：関門医療センター 3F研修ホール 参加費：500円
14:00～16:30

一般演題

- 「包括医療における経管栄養から経口移行への取り組み」
講師：茜会昭和病院 看護師 川野比香里 先生
- 「通所リハビリテーションにおける言語聴覚士の役割」
講師：茜会昭和病院 言語聴覚士 杉田大地 先生

特別講演

- 「健康長寿3つの柱～元気な高齢者の特徴～」
講師：茜会昭和病院 医師 末次正治 先生

